



# 地域なんでも情報局

第8号

平成24年9月18日発行

長崎市社会福祉協議会  
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281



## 第1回キッズ防災ボランティア養成塾



「自分でちやんとご飯が炊けたよ！」とカレーを美味しく味わったよ！とおぼる子ども達の嬉しそうな顔。今号の特集では、7月29日に長崎市社会福祉協議会西町支部（以下、「西町支部」という。）で行われた「第1回キッズ防災ボランティア養成塾」をご紹介します。



西町支部では、第1期西町小学校区福祉のまちづくり計画（西町プラン）に基づき、「災害にも強いまちづくり事業」が進められています。今年が事業開始一年目であり、今回のイベントはその中の一つで、子ども達の防災意識を高めることを目的に、楽しみながらできる体験型の学習として企画・実施されました。「今日は空き缶と牛乳パックを使ってご飯を炊く、『サバイバル飯炊き』を行います」という講師の説明に「本当にこれで（ご飯が）炊けるのかな？」と半信半疑の様子の子ども

「自分でちやんとご飯が炊けたよ！」とカレーを美味しく味わったよ！とおぼる子ども達の嬉しそうな顔。今号の特集では、7月29日に長崎市社会福祉協議会西町支部（以下、「西町支部」という。）で行われた「第1回キッズ防災ボランティア養成塾」をご紹介します。

一通りの説明の後、グループに分かれ工作を開始。普段使うことの少なくなつた缶切りやカッターナイフに子ども達は悪戦苦闘しながら、「道具は、こうやって使うとよ」、「カッターナイフの刃は使わない時はケガしないように必ずしまうようにしようね！」と西町防犯・防災ボランティア（※注1）の方々に手取り足取りやさしく教えても



パッククッキング！

コンロが倒れたりするアクシデントもありましたが、いつの間にか、子ども達以上にボランティアのおじちゃん達の方が夢中になっていました。一方、子ども達が屋外で炊飯作業をしている間、ふれあいセンター調理室では、西町支部のふれあい食事サービスポランティア（なのはな会）の方々が子ども達の昼食用のカレーの準備をする傍ら、ポリ袋を使ってご飯を炊く、「パッククッキング」のレクチャーを受けました。「避難所等で炊

### 暑さや煙と格闘中！



らいながら、ご飯を炊くためのコンロと釜が完成しました。その後、完成したコンロと釜を持って屋外へ移動し、各自炊飯作業を開始。途中火が消えたり、

※注1）主に男性を中心に組織された西町支部内のボランティアグループ。月1回の防犯パトロールの他、餅つき大会や西町まつりなど、西町支部の行事には欠かせない存在であり、年々メンバーも増えてきています。

うになりたい。」と達成感と満足感で満ち溢れたたくましい顔がそこにありました。これからも災害にも強いまち（西町）を目指し、講演会や各種講習会などの実施が予定されているそうなので、西町支部の活動には今後も注目していきたいと思えます。



頑張った後のカレーは格別においしかった！

ら、高齢者や幼児向けのご飯づくりにも使えるかもしれないね！」と好評の様子でした。暑さや煙と格闘しながら20〜30分をかけて炊き上げたご飯の入った空き缶のフタ（アルミ箔）を恐る恐る外し中を覗きこむと、美味しそうな匂いとともにお目見え。「うわあ、本当に炊けてる！」と子ども達から歓声があがりました。炊きあがったご飯にカレーをよそい、美味しくいただきながら子ども達に感想を聞くと、「いざという時には今回体験したことを思い出して、お父さんやお母さんがいなくても、自分でご飯くらい炊けるよ



上床サロン  
あぐりの丘にハイキングにて

「自分の地域でもやってみたらどうかかな？」と自分で勝手に始めてしまったそうです。この「誰から言われることもなく始めた。」サロンですが、当初は、理解してもら

「私たちがやってみようか！」というところで、皆で練習した「がんばらばらば体操」を披露することになったのも、サロンのお陰だと感じているそうです。「このサロンは、無理やり参加を募ったサロンではなくて、都合のついた方で、興味を持った方が集まる“凄く自由なサロン”なので、これからは、このサロンを大切にしていきたい！」とのことでした。

あの人！そんな人！こんな人！  
原美都里さん  
北陽町



原美都里さん  
北陽町の上床地区に在住で、保護司として活動する傍ら、生活学校や地域の食事サービスポランティア、高齢者サロンの運営にも携わっています。

ところも、話を持っていくところもなかったの、自治会の役員会の中でお願いし、自治会の広報紙で紹介してもらったり、ポスターを掲示版に掲示してもらったことで、サロン活動が継続出来ています。開設当時は、原さんも張り切った、毎月テーマを決めて色々な講師の方に話に来ていただったりしてやっていました。が、サロンに来る皆さんから「堅苦しいのも良いけど、自由にお話したい。」という声が上がりました。「じゃあ、お話だけの会も、たまにはしてみよう。」と言う事になりました。最近では、お話だけの会も増えているそうです。また、これまで、上床地区は参加しなかったがなかった、毎年、11月3日に滑石地区ふれあいセンターで開催される「高齢者の集い」に、サロンの仲間が「私たちがやってみようか！」というところで、皆で練習した「がんばらばらば体操」を披露することになったのも、サロンのお陰だと感じているそうです。「このサロンは、無理やり参加を募ったサロンではなくて、都合のついた方で、興味を持った方が集まる“凄く自由なサロン”なので、これからは、このサロンを大切にしていきたい！」とのことでした。



エコバックづくり！

# 困った時は、お互いの様

九州北部豪雨災害被災地に本会職員を派遣



梅雨も終わりに差し掛かった7月半ばに九州北部地方を襲った集中豪雨により、大分県や熊本県では土砂崩れや河川の氾濫により大きな被害が



ボランティアによる土砂の撤去が終わった家屋

発生しました。「川幅も大きいかから大丈夫だと油断していた。まさかあんな大きな川が氾濫するなんて!」、警報が発令されて窓の外を見るとあつという間に水位が上がってきたのであわてて二階に避難して命だけは助かりました」と災害発生当時の恐怖体験を語る被災者。また、過去に二度の水害を経験した被災者の中には、住み慣れたこの地での暮らしを諦めてまちを離れることを考えている方もいらつしやいました。一方、水が引き、変わり果てた我が家に呆然と立ちつくす被災者の傍らで、当時の話に耳を傾けながら土砂の撤去や清掃作業を行う大勢のボランティアがまちのあちらこちらに見受けられました。「高齢で独り暮らしの自分にはどうすることもできないと困っていました。見ず知らずのボランティアの方々に助けてもらって本当に感謝しています」と多くの被災者から感謝の言



大勢のボランティア (出発前のオリエンテーション中)

## 祝 銭座校区支部設立!

9月7日(金)、長崎市社会福祉協議会の55番目の支部となる銭座校区支部が結成されました。「支部結成はゴールではなく、住みよいまちづくりに向けたスタート!」という掛け声のもと、初年度はこれからのまちづくりの方向性について住民同士で語り合う「住民座談会」の開催が予定されています。



## 長崎玉成高等学校サロンの開始!



長崎玉成高等学校は、今年4月に校舎を移転し、新校舎は風頭公園から歩いて10分程のところにあつて、長崎港を一望できる風光明媚な場所から学校の一部を開放して、毎月第3土曜日に高齢者サロンを開催しています。

このサロンの名称は『よつていかなね笑々来楽部(おははくらぶ)』といつて、同校の福祉科の2年生の生徒たちが主体となり、学校の近隣に住む高齢者を招いて、生徒が自分たちで考えたレクリエーションなどをして、楽しいひとときを過ごしています。以前より福祉科の生徒から、学校を使って高齢者と交流ができないだろうか?という声があり、それならば高齢者サロンをやってみてはどうか?という先生の提案に生徒たちが賛同し、では実際にサロンをするのはどうしたらよいか?ということで市社



協に相談があり、それから一緒に準備を進めてきました。そして、準備を進めていく中で、「参加者への呼び掛けをどうするのか?」「サロンでやるゲームやレクリエーションの内容をどうするのか?」などといった様々な問題にぶつかりました。そういった問題を生徒たちは、先生の指導と市社協のアドバイザーのもと、みんなで話し合い、福祉科の先輩たちの力も借りながら、ひとつひとつ解決していききました。参加者への呼び掛けは、学校の近隣の自治会長のお宅に先生と一緒に足を運ぶ、自治会内の回覧板や自治会の会合などで、参加の呼び掛けをお願いしたり、ゲームやレクリエーションについては、お手玉を使ったレクリエーションを指導しているボランティア団体の「もつてこい長崎レクリエーショングループお手玉の会」から市社協を紹介して、講師を招き、高齢者とのレクリエーションで注意することや、工夫することを学び、また、自分たちでインターネットなどを使って、カルタやトランプゲームといったものを自作したりして着々と準備を進め、今年の6月16日に初日を迎えることができました。当日はあいにくの大雨で、参加者が来てくれるか不安でしたが、いざ始まってみると30名近い方が来てくれて、会場としていた学校のロビーが人でいっぱいになるほどでした。始まってみると『笑々来楽部』の名前のおり終始笑い絶えず、参加者も高校生のおしやべりを配っていたレクリエーションについても、参加者の協力もあり、みんなで楽しい時間を



福祉科2年生みんなでハイポーズ!

過ぎることができました。このサロンは、まだ始まったばかりですが、市内で初めての高校生が主体となって運営する高齢者サロンということ、他の地区で実施されているサロンとは、また趣の違う面白いものとなつておりました。何より学業の合間を縫つて、サロンに来てくれる参加者が、どうやったら楽しい時間を過ごしてもらえるかと、思考錯誤している高校生たちの姿には、感心させられるものがあります。興味を持たれた方は、一度のぞいてみてはいかがでしょうかですか。



サロンで足湯をしています いい湯だな~♪

## 花と花でつながる暮らしへ

ダイヤランド三丁目自治会

### ガーデン さるく



5月19日(土)と26日(土)に、ダイヤランド3丁目自治会(松島孝造会長)では、花を通じて人と人の絆を取り戻そうと、ガーデンさるくを開催しました。この催しは、個人の庭を開放して花や植物・お茶などを楽しむオープンガーデンでイギリスで始まつたとされています。この自治会でも2年前から、それまで個人で開催していたオープンガーデンを地域の活性化につなげようと、開放して下さるお宅を募集すると共に、近隣自治会にも呼びかけ、その輪は年々広がりをみせています。この2日間で集まつた参加者は280人と好評でした。永年丹精込めて手入れしたお庭を開放した3丁目の吉武さんは、「庭を通じて出会うのがとても楽しい!」「一緒に薔薇を楽しんで幸せな気分浸れた。」と微笑みながら話されました。「これから、住民の憩いの場、親睦の場、住んで良かったなあと言われる、花いっぱい3丁目にしたい」と松島会長は意気込んでいます。

